

学術情報

○招待講演

日時 平成5年1月22日

会場 心研会議室

主催 循環器小児科

講師 M.J. Tynan

Guy's Hospital, London

テーマ ファロー四徴症に対する interventional catheterization

雑 報

○編集幹事会

日時 平成5年1月11日(月)午後4時より

場所 弥生講堂地下 B会議室

議題 東京女子医科大学雑誌63巻4号査読結果審議
東京女子医科大学国際シンポジウムの Pro-
ceeding を本誌の63巻 Supplement として掲
載する件について

その他

○集会幹事会

日時 平成5年1月26日(火)午後4時より

場所 中央校舎1階会議室

議題 第293, 294, 295回例会について

今後の例会のあり方について

その他

訂 正

第63巻第2号の表紙の目次に誤りがありましたので、下記のごとく訂正し、お詫びいたします。

誤 「糖尿病妊婦の胎盤における糖輸送担体と出生時児体重に関する研究」

正 「糖尿病妊婦の胎盤における糖輸送担体と出生時児体重に関する研究」

編集後記

平成5年初の編集幹事会が1月11日(月)午後4時からB会議室において開かれた。すでに英語の論文や英文抄録は native speaker による校正(費用は著者負担)を受けることが決まり、実行され始めている。この件は昨年の本誌の編集後記にも要望としてしばしば記されていたものである。その効用は未だ号を重ねていないのではっきりしないが、「費用の負担が大きいが、勉強になった。」という著者からの感想を得るなど、まずまずの動きだである。

現在多数の学会誌・医学専門誌が発行されている中で、大学学会誌は大きな特徴を有している。論文投稿から出版までの期間が短いことは大きな長所であり、特に学位をめざす若手医師の中には最大限にこの長所を活用している人も多い。好意的な査読を期待できることもあろう。

一方、著者は誰に自分の論文を読んで欲しいのかという対象読者の設定が難しい。大学学会誌は大学学会会員のための雑誌であるとすれば、自分が書いた専門分野の論文は、専門外(自分の所属する専門科・教室以外の人の大部分)の読者が対象になる。学会誌・専門誌に発表する場合、同じ専門という土俵の上に立った読者を対象とするのと好対照である。当然、論文の書き方も専門誌向けの場合と異なってくるはずである。自分が論じたい事柄の背景から説明しなければならぬこともあろう。高度な専門性を有する概念や術語などには説明が要る。内輪でしか分からないような略語は避けるべきである。

実際には上記のような読者の限定は極端であり、大学学会誌は全国あるいは全世界の医科大学図書館をはじめとする図書館・関係施設に circulate されており、その道の専門家をも読者対象としている。特に筆者の次の論文の中でその論文を引用することで、読者対象はその事項に興味を示す専門家に絞り込まれるとも言えよう。ともあれ、専門家以外の読者を掘り起こす絶好の場でもある大学学会誌への投稿の場合、その人達にもわかる構成・文章表現を念頭に置いて執筆するのがよい。

(1993. 1. 19., M.A.)